

● 国の重要文化財(建造物)の新指定の答申が行われるものの概要(三重県関係)

【名称】『旧長谷川家住宅(きゅうはせがわけじゅうたく) 8棟』 1件

主屋(おもや)、大正座敷(たいしょうざしき)、大蔵(おおぐら)、
新蔵(しんぐら)、米蔵(こめぐら)、西蔵(にしぐら)、
表蔵(おもてぐら)、離れ(はなれ)

附 袴附(はかまつけ)、表塀(おもてべい) 二棟、
中門及び中塀(なかもんおよびなかべい) 一棟、
庭塀(にわべい) 一棟、物置(ものおき) 一棟、
稲荷社(いなりしゃ) 一棟、四阿(あずまや) 一棟、
祈祷札一枚(主屋附)、祈祷札一枚(大蔵附)、
祈祷札一枚(新蔵附)、棟札一枚(米蔵附)、絵図五枚

【時代】江戸時代～大正時代

【所在地】三重県松阪市魚町・殿町

【概要】

旧長谷川家住宅は、松阪市魚町・殿町に所在する住宅です。長谷川家は江戸時代前期から江戸と松坂で店舗を開設して繁栄を極めた伊勢商人です。

魚町側の敷地に主屋、大正座敷、大蔵等の土蔵群といった屋敷を構え、殿町側の敷地には大きな池をもつ回遊式の庭園を中央に、その東に離れを配しています。

江戸時代中期に建てられた主屋は明治に至るまで何度かの増改築を重ねた建物で、華やかな装飾等は見られないものの上質の材料を用いた重厚な構えをみせる建物です。他の建物群においても、近年の改変が最小限にとどめられ、家業の繁栄に伴い、敷地や建物を拡大していった様子をよく示しています。

旧長谷川家住宅は、江戸時代から大正時代にかけて、家業の隆盛とともに敷地や建物を拡張した、県内において最古級かつ最大規模の町家建築であり、各建物の棟札や絵図等とともに江戸店持ち伊勢商人の住宅の発展過程がわかる、歴史的な価値が高いものです。



主屋 外観



主屋 内観



大正座敷 外観



大正座敷 内観



西蔵 外観



離れ 外観